

# S・PORT よこはま

特集

## THE スポーツチャンバラ

世界最強、自由なスポーツ



スポンジ製の刀で互いに叩き合う（切り合う）スポーツチャンバラ。名前からは子供の頃に遊んだチャンバラごっこを連想させるが、はたしてその正体はいかに。  
そこでS・PORT取材班は、スポーツチャンバラの正体を探るべく、横浜市に本部を置く国際スポーツチャンバラ協会の道場を訪れることにした。

特集

世界最強、自由なスポーツ

### THE スポーツチャンバラ

連載

スポーツ外傷

タローズアップ.....2

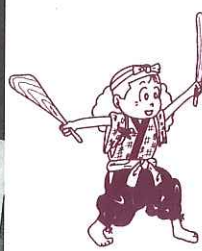
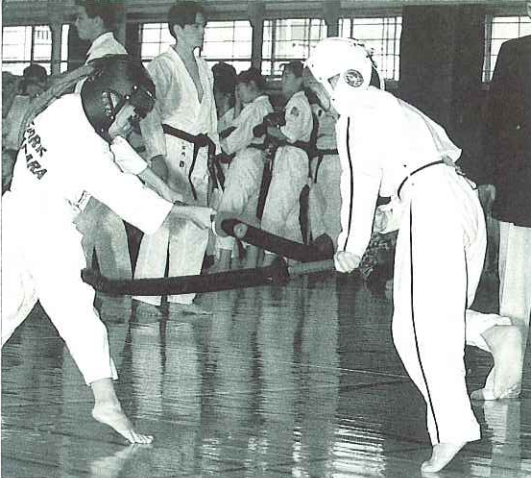
施設ジグザグ.....3

センタータイムズ.....10・11

いんぶおめいしよん.....14・15

.....4

.....12・13



スポーツ？武道？そんなことにこだわらず  
戦いの原点に立ったとき、あなたは

# 武蔵になるか 小次郎になるか



とながら負けである。また、相討ちの場合には、双方が切られたと解釈し、その時点で戦いは終了となる。勝負の判定に選手が「物言い」できるルールは、このような真剣勝負の意識からきている。無防備な攻めは、命を粗末にすることになるのだ。

命あつてのものだね  
戦いにどう挑むか

攻めること  
守ること

スポーツチャンバラでは、「いかに相手に打たれないようにするか(切られないようにするか)」が大切なポイントである。「打たれる(切られる)」ということはすなわち「死」を意味し、勝負は当然のことながら負けである。また、相討ちの場合には、双方が切られたと解釈し、その時点で戦いは終了となる。勝負の判定に選手が「物言い」できるルールは、このような真剣勝負の意識からきている。無防備な攻めは、命を粗末にすることになるのだ。

バラは「とにかくどこか打てば勝ち。打たれたら負け」の至極単純なルールとなっている。このためスポーツチャンバラには打ち方やよけ方(守り方)に決まった型がなく、試合ではおのおのが自由な戦法、自由な動きで戦うことができる。

古代の戦いには、はたして  
ルールがあったのだろうか？

スポーツに  
流儀はない

「ルールが細くなければなるほど、その競技の獨創性や創造性がせめられてしまう」、「実際の勝負(生きるか死ぬか)に、ルールを決めて戦う者がいるだろうか」という考えから、スポーツチャン



スポーツチャンバラ  
創始者



田辺哲人さん  
国際スポーツチャンバラ協会会長  
全日本護身道協会会長

「重い防具と堅い制約をとりはらい、のびのびと戦ってみよう。剣術をもう一度戦いの原点に戻そう」と、昭和48年に国際スポーツチャンバラ協会を横浜に設立する。

スポーツチャンバラの創設は、ほんの些細な出来事がきっかけ。田辺さんは剣道の有段者であるが、ある日の稽古中、子供の邪気無きひとふりが頬をかすめた時、段位の意味や戦いの本来の意味を考えさせられたという。

自由で老若男女公平に行えるこの「スポーツチャンバラ」を、今後、世界融和のために発展させていきたいと大きな夢を持っている。

スポンジが  
巻いてあるから  
やわらかいよ

面は軽いから  
動きやすいわ



長剣  
全長100cm  
以下

小太刀  
全長60cm以下

槍  
全長180cm以下

現代の武蔵  
&  
小次郎



平成の  
小次郎  
佐々木誠さん  
21才 会社員

小学生の時、友達に誘われて始めたスポーツチャンバラが、今ではやみつきに。仕事帰りの稽古にも熱が入る。「とにかく自由にやれるのがいい。打たれても痛くなく、思い切り打ちあえるので、ストレス発散にはもってこい！」



女 武蔵  
田辺 恵さん  
16才 高校生

スポーツチャンバラを始めてまだ3年の恵さんは、女子小太刀の部世界チャンピオン。田辺会長の姪御さんでもある。「年齢や性別に関係なく、平等に勝負できるのが魅力かな」

# 勝負！ 一対一

さて、今後は試合形式の練習稽古だ。一対一で向かい合い、切られたら交代である。獲物は互いに同じものを使う。対戦する二人以外の者は、戦いぶりを見守るかのように周囲をぐるりと取り囲む。「はじめ」の合図と同時に、二人の構えが低くなり、いよいよ勝負開始だ。

小刻みに動きながら相手の出方をうかがう。まさに正式な試合さながらの緊張感！「相手を倒したい、切られたくない、どうやって攻めよう、どうやって攻めてくる」頭の中ではんの一瞬の間に、たくさんの方が思い浮かぶ。自分自身緊張しているのがわかると同時に攻撃的になって



いる自分を楽しんでるのが心地よく感じられる。「ワクワクする」闘争心をかきたてられる、こんな気持ち



善戦する取材スタッフだが...

とにかく攻めよう。「エイ！」と面を狙った長剣は無情にも空を切る。(うぐむ、おかしいな。いとも簡単にかわされてしまった。よし、もう一度「エイ！ヤァー！」。(全然ダメである)

気をゆるめた次の瞬間、相手が低い姿勢で大きく踏み込み、床をなめるように足を切り付けてきた。前足をあげて防ぐのが精一杯だ。しかし、バランスを崩したところへ、「胴」を狙った一撃が決まる。「無念！しかし、次の対戦では必ず勝つ！」。

# 合戦だ！

稽古の仕上げは合戦勝負。五人一組のグループを作り、グループ対グループの対戦である。獲物は、槍、長剣の二刀流、長剣と小太刀の二刀流などなど自由に選べる。誰を倒しても構わないが、先に全員倒されたグループが負けである。お互いに向かい合い、様子をうかがう。相手がみんな強そうにみえるのは気のせいだろうか。



取材班チームには助っ人を入れて6人(ズル〜イ！)

「はじめ！」の合図で、一斉に動き出す。目の前の相手にだけ気を取られていると大変。突然、横から槍が飛んできたりするからだ。味方が一人切られると、自分に向かってくる敵の数が増える。ますますキョロ



切られてしまった。(怖かったよ、勝ったかったよ)

キョロしてしまおう。また一人切られる。また敵が増える。手を出したいが出せない。つぎの間、敵が一斉に攻めてきて、やっぱり



ご協力いただいた協会のみなさんありがとうございました。

## いざ出陣！

中区桜木町にある道場は、国際スポーツチャンバラ協会会長の田辺哲人氏が館長を務める護身道国際誠心館の道場でもある。中ではすでに一〇数名の剣士たちが稽古の真最中。熱気ムンムンの中、変幻自在な素早い動きで、互いに打ち合うその華麗な姿と迫力にまず圧倒されてしまった(無事に帰れるかなあ)。



たのもうへ、とばかり道場へ。

## さあ、チャンバラだ！

「それじゃ早速やってみようか。見ているよりも実際にやってみたほうがスポーツチャンバラがよくわかるから」との田辺会長の言葉にうながされ、防具を身に付ける取材班。武器(獲物という)は小太刀、長剣、槍などの中から、まずは長剣(剣道の竹刀くらいの長さのもの)を選んだ。「それでは、おねがいします！」

「さあ、好きな所を打ってきなさい！」。いきなりそういうわれて、取材



お願いします。

班一同はキョトン。「打ち方、よけ方の練習はしなくていいのかな？」と疑問に思っていると「スポーツチャンバラに決まった型はないんだ。打ち方もよけ方も自由！」と言われ、「よし、いっちょやってみるか」と勇氣を持って田辺会長に打ち込んでいった。「面、胴(どうしても、剣道になってしま

うなあ〜)」とかけ声だけは勇ましかったが、一瞬早く田辺会長の剣が「パシッ」という音を立てて足元に決まる。衝撃と音に驚き、思わず目をつぶってしまったが、それほど痛さはない。なんてのんきなことを考えていたら「本当の刀だったら切られているんだよ」と言われてしまった(ナルホド)。「どンドン打ってきなさい」の声に氣を取り直し、もう一度「エイ、ヤァー！」とがむしやうらに打ち込んでいくと今度は軽くかわされ、またまたきついお言葉。「が



小太刀のかまえ

むしやらに打てば良いものでもないんだ。打たれないようにしながら打つ。これが大切だ。さあ、もう一度！(ムムツ、なかなか奥が深い)。何度か打ち込んでいくうちに少しずつではあるが、よけるタイミング、打ち込むタイミングなどがつかめてきた。慣れてきたところで今度は小太刀に持ち変えて、再び田辺会長に挑む。

長剣の半分くらいの長さの小太刀を片手で持ち、もう一方の手は相手の太刀をブロックするように顔の前に構える。相手の太刀を手でブロックすることを、かばい手というが、かばい手は一度だけ(二度、太刀を受けた手は切られたということ)で、以後、片手は帯を握ったまま戦わなくてはならない。小太刀は短いので、相手にできるだけ接近しないと打ち込めない。間合いを取りながらタイミングをはかり、一氣



小太刀 vs 小太刀

に相手の懐に飛び込んで打ち込む。もちろん相手に打たれてはいけな

いのだ。(かなりスリリングだぞ)

最後の獲物は槍。長さが一八〇cmほどもあるのに、扱いが大変だ。また、かなり離れたところからいきなり攻撃されるので、初心者の方にはとてもよけきれない代物。いままでの獲物の中では最も強力な獲物との印象を得た。三種の獲物を使つての稽古もアツという間に二〇分が過ぎた。終わってみれば汗が流のように流れ、腕は棒のよう。足の裏にはマメができるし、もうクタクタ。でも、そんなことも気がつかないほど、夢中になってしまった。ちようど子供の頃にやったチャンバラ



槍 vs 槍

ごっこを思い出す。しかし、稽古はまた始まったばかり。これから先がちょっと心配？